

日本史	1年・前期	1単位	教授 中村 光一
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220131

1. 授業のねらい・概要

日本の歴史を通史の形でたどりつつ、それから医療・看護史に関する知識を社会的・文化的側面を中心として学ぶ。もとより8回の講義の中で医療・看護史を網羅的に述べることは困難であり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 学修の到達目標

1. わが国における医療の歴史の概要を知る。
2. 歴史の流れを通じて、医療の上で看護師の果たす役割の大きさを認識する。

3. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

4. 授業計画

1. 導入—日本の人口動態	5. 『病草紙』の世界
2. 律令制下の医療制度	6. 蘭学の発達
3. 「天然痘」と奈良朝政治	7. 華岡青洲と麻酔術
4. 怨霊と物の怪	8. 「脚気」のなぞを解く

5. 成績評価の方法・基準

試験の結果(70%)、授業への取り組み姿勢(30%)。講義への積極的な参加を希望する。

6. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義中にプリントを配付する。配付物の試験持ち込みは不可であるため、ノートを別に用意して講義を受講すること。また、参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、今回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

8. 受講上の留意事項

本講義では、日本史上の人物や法制史料など固有名詞がしばしば現れることになる。これらは高校程度の日本史の知識で十分対応できるものであるが、高校時代に日本史の授業を受講していない学生は、授業ごとに復習して次の講義までに知識を確実なものとしてほしい。

9. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目。